

「日々の理科」(第 1936 号) 2019, 10, 27

「小石川植物園の台風被害 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

台風や低気圧の通過後、東京もすっかり秋めいてきた。私の自宅は小石川五丁目にあつて、小石川植物園に近い。自転車で5分ほどなので、週末に東京にいる時はよく出かける。現在大人の入場料は400円だが、11月中旬の温室リニューアルオープンに合わせて、500円に値上げされる。(「年パス」も販売開始される予定)公園とちがって入場料を徴収するので、本当に自然に触れたい人が入園する。飲酒や遊具の使用も禁止なので、園内は比較的静かだ。私は30年も前から後援会会員なので、いつでも無料で入れるのが嬉しい。



10月下旬の植物園は、これといった特徴がなく、見るべき草花も樹花もない。紅葉にはまだ早いので、わざわざお金を払って入園する人は稀である。



正門から段丘崖を上がる坂道のサクラは、日当たりが良いので気が早く、もう葉が散っていた。植物観察の団体が集まって、何か打ち合わせをしていた。



私がこの日に植物園を訪れたのは、画を描きたいということもあったが、台風による被害も心配だったからである。多くの樹木が倒れたり折れたりしたと、友人から聞いていたのだ。研究棟前のヒマラヤスギの巨木はどうやら無事だった。



有名なサクラの林も、今は閑散としている。葉は少し色づいているが、まだほとんど枝に残っている。見たところ、細い枝はずいぶん落ちていたが、樹そのものが倒れたものはなかったようだ。



サクラ林の北側にある、モミジの並木も人の気配が全くない。このモミジはこれから美しく装うが、1本も被害がなかったようで、ほっとした。